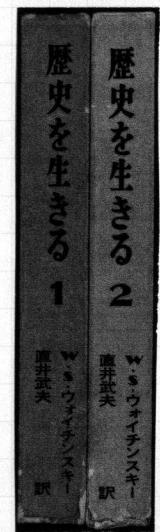


直井武夫

訳書家。明治二十年一月二日香川県生れ（ハセヤ）。

大正八年同志社大學神學部卒業。十一年上京、水曜會、政治研究會で活動。昭和一年日本共產黨（大澤）、「ニ・一・五事件」（黨員一齊檢舉）後コミニシテルン批判して轉向。獨學（ロシタ語を學び、十年内閣調査局（のち企畫院））に入りソ聯班主任となる。次いで陸軍參謀本部に轉じてソ聯研究に從事。十六年企畫院事件に連坐して檢舉。その後北支那開發本社監査、戰後は民主労働者協議會副議長。二十一年關善義（日本文化アーツ）を創設し、雑誌『自由』を發刊する。

譯書：「レーニン著『労働者と農民』（昭和）一年十一月」由共生閣「レーニンズム叢書」）、ヤー・ワレンシュタイン著『ヘーゲル辯證法批判』（昭和六年一月十八日春陽堂）、クズミンスカヤ著『私の見たトルストイ—義姫の伝記』全一冊（上巻・昭和二十一年五月十五日、下巻・七月三十日改造社）、カルリス・ラモン著『近世學』（ヒューマニズム）（昭和二十六年十一月）十五日河出書房）、W.S.ウォイチンスキイ著『歴史を生きる』（昭和二十五年十一月）一十九日、2・二十六年四月）二十日講文社）等。



和「一九一九年十一月（韓美書院）」、「聯蘇俄の眞実」（昭和）二十六年六月八日印刷・民主日本書会「民主日本文庫」）等。